

ランチョンセミナー(抄録)

対決！耳鼻咽喉科 vs 小児科 in 小児上気道感染症

遠藤 廣子

池田クリニック 耳鼻咽喉科・小児科

池田会長の発案のこのランチョンセミナーは、表題が刺激的で、耳鼻咽喉科医と小児科医が症例について見解の相違からバトルを繰り広げることを期待する向きもあるかと思いますが、落としどころは少し異なります。「対決」するのは、診療経験が十二分におありで、肩肘を張る必要のない域に達しておられるベテランの遠藤先生と工藤先生です。共に、それぞれの科の得意どころ、苦手どころもわかった上で、適当な解決策を見つけていくことの名人です。ですから、「対決」よりは「止揚」の域に達することが期待されます。

小児の感染症の中で上気道関連のものは極めて多く、小児科医、耳鼻咽喉科医、さらには内科医、総合医などがその診療に当たっています。中でも多いのはウイルス性の急性鼻咽頭炎（感冒）で、それぞれ細菌性の急性咽頭・扁桃炎や急性鼻副鼻腔炎との鑑別が必要になり、それがそのまま抗菌薬の使用の適応と関係するため、近年ガイドラインが設定されてきました。また、急性中耳炎についても、細菌性であっても抗菌薬投与の必要のない例があることは改めて認識されてきています。ガイドラインもいくつかの学会から出されており、必ずしも見解が一致しているわけではありません。このセミナーの進行は私が自施設で経験した上気道を中心とする頭頸部領域感染症の小児例（主に入院例）を提示し、それに対してお二方から意見を賜り、適切な診断・治療に結びつけるためにどういう攻め方をするのか、そのコツを皆さんにつかんでいただこうと思います。併せて、病態の理解を深めるため、また一般診療にプラスアルファするための関連質問をすることにします。

限られた時間ですが、皆さんに楽しんでもらえるように、お二人の講師ともども頑張りたいと思います。